



アメリカ

テクニカルサポート詐欺に注意

●FTC ホームページ <https://www.consumer.ftc.gov/blog/avoid-tech-trap>
https://www.ftc.gov/news-events/press-releases/2017/05/ftc-federal-state-international-partners-announce-major-crackdown?utm_source=slider ほか

世界的規模のサイバー攻撃で、各国の大企業や公共交通機関等のパソコン(PC)にコンピューターウイルス感染によるシステム障害が発生した。専門家はセキュリティソフトの利用やOSの更新、不審なメール等を開かない、知らないリンクをクリックしないなどの対策をアドバイスしている。FTC(連邦取引委員会)では、PCのセキュリティへの不安に便乗する「テック(テクニカル)サポート詐欺」にも気をつけるよう注意喚起をしている。

PCの画面上に突然「このPCはウイルスに感染している」等という大手IT企業のポップアップ警告に似た広告を載せ、提携業者を装ってウイルス駆除やデータ回復のサポートを持ちかける。PC画面上の番号に電話すると診断ソフトをダウンロードするよう誘導され、元々感染等していないPCを修復した

ように見せかけて多額の料金を要求する。カウントダウン時計の表示等で脅迫する仕掛けもあり、ユーザーはさらに不安になりだまされやすくなる。

FTCでは、昨年より州・連邦の法執行機関やカナダ、オーストラリア、インドの所管当局とも協力し、「オペレーション・テック・トラップ」と名付けたテックサポート詐欺の取り締まり強化を実施しており、その成果を発表した。それによると、各州において、テックサポート詐欺を行ったとして提訴されている事業者や個人に対して、州裁判所により業務差止命令や資産没収の判決が下された。

FTCでは、消費者啓発のための「テックサポート詐欺に関する消費者教育」を更新し、夏には法執行機関と事業者との合同会議も予定されている。インド当局のテックサポート詐欺撲滅にも協力している。



オーストラリア

電子タバコは健康的で安全か

●CHOICE ホームページ <https://www.choice.com.au/health-and-body/health-practitioners/prevention/articles/electronic-cigarettes>
●NHMRC ホームページ <https://www.nhmrc.gov.au/guidelines-publications/ds13/>
●ACCC ホームページ <https://www.accc.gov.au/media-release/e-cigarette-companies-to-pay-penalties> ほか

電子タバコ(e-シガレット)とは、タバコやメンソール風味の液体を入れたカートリッジを加熱し、発生したミストを吸入する用具である。ニコチンを含むものと含まないものがある(日本やオーストラリアではニコチン含有のものは販売禁止)。

CHOICE(オーストラリア消費者協会)では、電子タバコが支持される理由として、通常の紙巻タバコは燃焼によって一酸化炭素やタール等の発がん性物質や化学物質が発生するが、電子タバコは燃焼しないので比較的安全であり、副流煙による受動喫煙の害も防げ、禁煙の手助けにもなることを挙げている。しかし、これらは科学的に実証されておらず、ニコチンを含まないものでも、長期間蒸気で吸入された場合、安全性が未確認の化学物質が液体中に含まれており、それが通常のタバコの喫煙へのきっかけに

なるとの懸念もあることから、アメリカやEUでは、電子タバコ購入の年齢制限や有害表示など、保健当局等による規制を導入している。

オーストラリアでも、NHMRC(国立保健医療研究審議会)が、安全性に関する長期間の調査研究の結果が明らかになるまでは、使用者や特に子どもなどの弱者保護の対策を政府に求めている。ACCC(競争・消費者委員会)は、電子タバコのオンライン販売業者に対し、有害な発がん性物質であるホルムアルデヒド等が含まれていることを知りながら発がん性物質はない旨の広告・表示を行った事業者を提訴し、オーストラリア連邦裁判所は、消費者法違反により罰金を科す裁定を下した。発がん性物質が含まれている電子タバコの虚偽表示に対し、法的判断が示されたのは世界初であるとACCCは述べている。



オーストリア

マダニからペットを守るために

● VKI「消費者」2017年5月号 <https://www.konsument.at/test-zeckenschutz052017>

春から晩秋にかけて活動するマダニは、人間やペットの皮膚に寄生しながら数日間かけて吸血を行う。特にねらわれやすいのが、草むらで遊ぶ機会の多い犬だという。マダニはさまざまな感染症を媒介することから、ペットを守る対策が急務である。

そこで、VKI(オーストリア消費者情報協会)は、犬猫用のマダニ対策品20商品を対象に、その効果をテストした。対象品を形状で分類すると、首輪が7商品、スポットオン(滴下剤)が12商品、琥珀ネックレスが1商品であり、メーカーが表示する用途別では、駆除剤が8商品、忌避剤等が12商品とされる。テストでは、商品を装着・塗布した犬猫をマダニのいる草むらに入れる「動物実験」ではなく、商品に含まれる効果物質をペーパーフィルターに塗り、マダニとともに小袋に入れてシャーレに置く方法を取っ

た。1商品ごとに、メスの成ダニ20匹を使った。

その結果、駆除剤のうち5商品(首輪3、スポットオン2)では、48時間以内に95%のマダニが死んでおり、即効性が認められた。いずれも神経毒を含むことから、獣医の処方箋がないと入手できない商品である。その一方で、琥珀ネックレスは、まったく効果がないと評価された。ニームなど自然素材の忌避剤も、効果なしとされたばかりでなく、アレルギー発症等の可能性を指摘された。

同協会は、ペットの体の大きさによってふさわしい薬剤の濃度が異なること、犬には適切でも猫には有毒な商品もあることから、必ず獣医に相談して商品を選択するよう勧める。また、装着・塗布した商品を、一緒に飼っている他のペットや子どもが舐めたり、なでたりしないよう注意が必要だと助言する。



ドイツ

ルイボスティーに混入する自然毒に注意

● エコ・テスト出版「エコ・テスト年報2017」 <http://www.oekotest.de/cgi/index.cgi?artnr=108598&bernr=04&gartnr=1&suche=rooibos>
 ● エコ・テスト出版「エコ・テスト」2016年8月号 <http://www.oekotest.de/cgi/index.cgi?artnr=108127&bernr=04&gartnr=1&suche=rooibos>
 ● BfR ホームページ http://www.bfr.bund.de/de/fragen_und_antworten_zu_pyrrolizidinalkaloiden_in_lebensmitteln-187302.html

紅茶のような赤茶色で、ほのかな甘みのルイボスティー。カフェインを含まないことから、子どもでも安心して飲めると人気がある。このお茶は、ルイボス(Rooibos)という低木の針状の葉から作られる。南アフリカ共和国の一地域に育つ希少な植物だが、収穫の半数以上がドイツに輸入されるという。

ところが、ルイボスティーなどハーブティーに含まれるPAs(ピロリジジナルカロイド類)*に対し、不安を抱く消費者も少なくない。PAsは、植物が害虫から身を守るために作り出す自然毒で、遺伝毒性、発がん性が指摘されている。このようななか、ルイボスティーに含まれるPAsは、収穫の際、PAsを産生する別の植物から混入するものであり、主な原因植物はキオン属ではないかという調査結果が発表された。この植物は針状の葉、黄色い花を有し、

外見がルイボスに似ていることから、誤って一緒に収穫されると、その後PAsを取り除くことは不可能だという。これを受け、ハーブティー業界では現地の栽培者と協力してルイボスティーに含まれるPAs低減に努め、効果が徐々に出始めているとのことである。そこで『エコ・テスト』ではルイボスティー22商品を対象に、PAsの含有量をテストした。

その結果、16商品がBfR(連邦リスク評価研究所)の推奨値を超過していた。同値は非常に厳しい目標値なので、この値を基準とすることには賛否両論がある。同誌は、事業者にさらなるPAsの低減を求めるとともに、消費者には含有量の少ない商品を選ぶよう助言している。

* ウェブ版「国民生活」2013年12月号
http://www.kokusen.go.jp/wko/pdf/wko-201312_05.pdf